

CASBEE-建築(新築)2016年版
 リバードコーポレーション(株)ベクトル工場新築工事

 ■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

 欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.9
Q1 室内環境			0.33			2.8
1 音環境		2.6	0.15			2.6
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40			
1.2 遮音		3.0	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	0.60			
2 界壁遮音性能		3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						
1.3 吸音		1.0	0.20			
2 温熱環境		2.6	0.35			2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.38			
2 外皮性能		3.0	0.25			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38			
2.2 湿度制御		1.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30			
3 光・視環境		2.8	0.25			2.8
3.1 昼光利用		3.0	0.30			
1 昼光率		3.0	0.60			
2 方位別開口						
3 昼光利用設備		3.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30			
1 昼光制御		3.0	1.00			
3.3 照度		2.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25			
4 空気質環境		3.5	0.25			3.5
4.1 発生源対策		4.0	0.50			
1 化学汚染物質	全面的にF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.30			
1 換気量	建築基準法の1.4倍以上の換気量を確保	5.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33			
4.3 運用管理		3.0	0.20			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50			
2 喫煙の制御		3.0	0.50			
Q2 サービス性能			0.30			3.0
1 機能性		2.7	0.40			2.7
1.1 機能性・使いやすさ		2.6	0.40			
1 広さ・収納性		4.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33			
3 バリアフリー計画		3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30			
1 広さ感・景観	事務室の天井高3.0m	5.0	0.33			
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33			
3 内装計画		1.0	0.33			
1.3 維持管理		3.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30			2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管にHIVP、排水管にVPを使用	5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20			
2.4 信頼性		2.8	0.20			
1 空調・換気設備		3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20			
3 電気設備		3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5 通信・情報設備		3.0	0.20			

3 対応性・更新性		3.4	0.30		-	3.4
3.1 空間のゆとり		4.6	0.30		-	
1 階高のゆとり	階高が3.9m以上確保されている	5.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.134	4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性		3.0	0.40		-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.37	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出		3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性						3.1
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱性の高い建材を採用している	5.0	0.07		-	5.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.12		-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.79	3.1	0.58		-	3.1
4 効率的運用		3.0	0.23		-	3.0
集合住宅以外の評価		3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価						
4.1 モニタリング						
4.2 運用管理体制						
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護		3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水	自動水栓・節水型便器を採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.0	0.60		-	3.0
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ソーラトン(天井仕上材)、エコラックス(内壁仕上材)	4.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20		-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70		-	
1 消火剤		-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)	断熱材にグラスウールを採用	5.0	0.50		-	
3 冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	高効率な設備機器を採用し、CO2を削減	3.5	0.33		-	3.5
2 地域環境への配慮		2.5	0.33		-	2.5
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2 污水处理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮		3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1 騒音		3.0	0.33		-	
2 振動		3.0	0.33		-	
3 悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40		-	
1 風害の抑制		3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制						
3 日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制		3.7	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	評価の取組み表の評価ポイントが3ポイント、広告物照明を行っていない	4.0	0.70		-	
2 壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	